

## 22 集団活動で落ち着かないEさん（小学校）

Eさんは、集会活動や学校行事に参加する際、参加することを嫌がり、その場においても落ち着かない様子が見られます。友達や教師に促されてもなかなか次の活動に参加することが難しいようです。どう配慮していけばよいのでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎行動に対する見通しがもてずに、不安感が増すため
- ◎活動内容の理解ができないため

#### 1 活動の見通しをもたせる 〈①-1-1〉

○昨年度の活動の様子を映したビデオや写真などを事前に見せたり説明したりして、活動の様子を確認する。

合理的配慮・具体的な支援(例)



昨年度のビデオを見て、今年度の活動内容について説明します。



「あの時は、〇〇したね」「去年と同じことをするんだね」などと自発的な発言があり、本人も落ち着いて活動の内容を確認することができました。

## 2 活動計画表・活動メモを活用する <①-1-1><①-2-3>

- 活動計画表を活用して内容の確認をしておく。
- 活動メモを児童が作成し、展開場所までもっていくことで、活動内容について不安になったら、自分で確認できるようにする。



担任と活動内容を確認しながら活動メモを作ることで、活動の見通しがもてます。



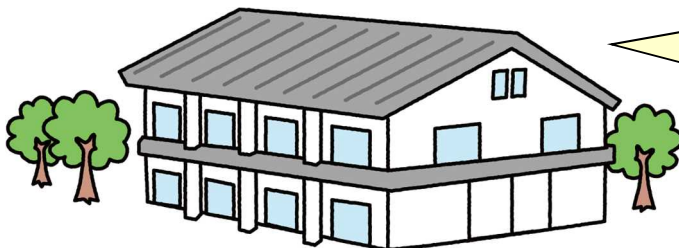
《活動メモ》

- 1 場所 ( )
- 2 時間 ( ) 時間目
- 3 内容 ( )
- 4 気になること ( )

作った活動メモを、いつでも見ることができるようになりました。場面が変わる時の不安感を軽減し、活動に取り組むことができました。

## 3 事前学習を行い、活動内容を確認しておく <①-1-1>

- 実際に活動する場所で、活動内容や位置などを本人と担任で事前に確認する。また、当日は、周りの児童より先に活動場所に行き、人が増えていく変化に慣れるようにし、本人の不安を軽減する。



事前に、実際に活動する場所で、具体的な活動内容や自分の立つ位置等を本人と担任が確認しておくことが大切です。

## 23 清掃活動に取り組めないFさん（中学校）

Fさんは、掃除の活動に取り組めずにいます。活動に集中できずに、周りの友達に話しかけたり、歩き回ったりしてしまいます。活動に集中して取り組めるようにするには、どう配慮をしていけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎自分の役割や手順の見通しがもてずにいるため
- ◎道具の使い方が分からないため

### 合理的配慮・具体的な支援（例）

#### 1 役割や手順を確認する〈①－2－3〉

- 清掃分担・チェック表を作成し、活動について確認をする。
- グループを編成し、友達と協力しながら取り組めるようにする。  
活動内容についてお互いに確認をし、リーダーを中心にチェック表を使用しながら、清掃の振り返りを行うようにする。
- 活動の始まりと終わりの時刻について、活動が始まる前に確認する。



グループ内で係分担を決め、それぞれの役割を把握することが大切です。

〇月〇日清掃分担表・チェック表〇〇グループ					
活動場所「〇〇〇」					
手順		Fさん	Gさん	Hさん	Iさん
1 用具の準備	①ほうき・ちりとり				
	②ぞうきん・バケツ				
2 活動内容	①はく				
	②ぞうきんがけ				
3 片付け	①ほうき・ちりとり				
	②ぞうきん・バケツ				

グループ活動にすることで、役割や手順について友達と確認しながら、最後まで活動することができるようになりました。

## 2 清掃場所で、道具及び係分担を確認する <①-1-2>

- 清掃分担表をもとに必要な道具を各自が準備し、始まりのあいさつの時点でリーダーが清掃分担と準備物を確認した後に清掃を開始する。
- ごみを集める場所や一人一人が拭く場所を決めておく等、係分担や具体的な活動を明確にする。
- 困ったことがあったらリーダーに確認するように決める。



必要な道具が準備できたら、リーダーに報告するようにし、友達と協力しながら活動に取り組むようにします。

グループでの活動で、友達の様子を見たり、自分の活動を友達と確認したりしながら活動することで取り組める内容が多くなりました。

## 3 活動の見通しがもてるよう清掃活動表を提示する <①-1-2>

- いつまで活動をすればよいのか、あとどれくらい活動をするのか気になるときに、清掃活動表を見たり、リーダーに確認したりしながら最後まで活動に取り組めるようにする。
- 自分の活動が終了したときは、グループリーダーに必ず報告するようにする。
- 清掃活動表を手掛かりに、次への活動に進んで取り組めるようにする。

○月○日 清掃活動表 (Fさん用)	
活動場所「○○○」	
手順	
1 用具の準備	①ほうき・ちりとり
↓	②ぞうきん・バケツ
2 活動内容	①はく
↓	②ぞうきがけ
3 片付け	①ほうき・ちりとり
↓	②ぞうきん・バケツ

集中が途切れた時は、あとどれくらいで終わるのか、リーダーと確認し見通しがもてるようにすることが大切です。

活動に戸惑ったときには、清掃活動表を見たり、友達に聞いたりしながら、最後まで活動に取り組むことができました。



## 24 変化が嫌いで避難訓練が苦手なGさん（小学校）

Gさんは、時間が変わる、場所が変わるなど、急な変更に対応ができず、パニックになることが多くあります。いつもと違う避難訓練に参加することが苦手です。訓練の避難指示の放送にも敏感に反応してしまうことがあり、その場にいることができなくなることもあります。どう配慮していけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎日程や時間の変更のため、活動の見通しがもてないため
- ◎音に敏感で、大きな音に反応してしまい、落ち着いて行動できないため

#### 1 スケジュールや避難動作を提示する 〈①-2-3〉

- 事前に避難訓練の予定表を作成して、どのような活動があるか理解できるようにする（写真やイラストを活用して視覚的に提示）。避難訓練に関する時間変更や避難動作について事前に提示して、理解できるようにする。

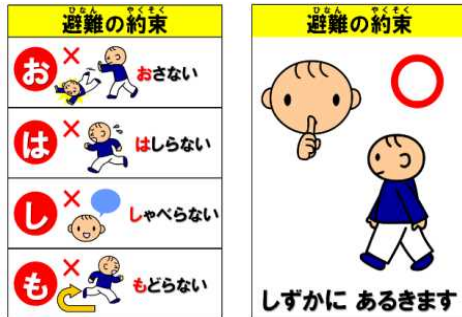
合理的配慮・具体的な支援（例）



いつもと日程が違う避難訓練では、どのように行動すればよいかを視覚的に（写真で）示しました。その結果、見通しをもつことができ、避難動作がとれるようになりました。

## 2 避難時の伝達方法を工夫する 〈①-2-1〉

○耳栓を利用している場合、避難時の放送が聞こえない場合があるため、その際に応じた避難時の伝達方法（代替）を用意する。



避難指示の伝達方法（視覚的提示）を本人と確認しておくことで、当日スムーズに避難訓練に取り組むことができました。

## 3 どうしても我慢できない場合には待機場所を設置する 〈①-1-2〉

○全体の集合場所に集合できない場合は、待機する場所を事前に決めておき、その場所以外には行かないこと、気分が落ち着いたら必ず所定の場所に戻ってくることなど、いくつかの約束事を決めておく。



いざという時にどこでクールダウンするかを決めておくことで、いつもと違う活動に不安なく取り組めることが増えてきました。

## 4 いざという時のために、避難所体験の事前学習を実施する

〈①-1-1〉 〈①-2-2〉

○災害時の避難所での生活（トイレ）を事前に学習することにより、いざという時に不安なく行動できるようにする。



事前学習でいつもと違う避難所のトイレの利用について経験することで、災害に対する不安を軽減することができました。